

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3345S		
科目名	海外実地研修		
担当教員	宮川 正		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	集中		
講義室		単位区分	
授業形態	実習	単位数	
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	留学・海外研修		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 〔DP6-K〕表現力・対話力 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他社に過不足なく伝達することができる。 〔DP4-F〕探求力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に応えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び講義のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結びつけることができる。 ■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 〔DP6-K〕表現力・対話力 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他社に過不足なく伝達することができる。 〔DP4-F〕探求力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に応えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び講義のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結びつけることができる。 〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 ◎K1 ライティング・コミュニケーション（5%） ◎K2 オーラル・コミュニケーション（15%） ○F1 探求と論拠（15%） ○F2 課題解決（15%） ○J1 継続的学修基盤（10%） ○J2 創造的思考（10%） ◇A1 グローバル感覚（15%） ◇A2 異文化適応（15%）"		

教員の実務経験	本校卒業後、航空自衛隊に入隊、以来４０年余り国の安全保障にかかわる業務に従事しました。その間、米国留学や防衛駐在官勤務（米国）を経験するとともに、実任務としても中東地域に滞在しました。本研修では各国で得た実務上の知見と経験をもとに、グローバルな時代を生きていく学修者にとって必要な知識を還元していきます。（第1～15回）					
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 ３ 発展期 ～ ４ 定着期					
科目概要・キーワード	本研修は、グローバル化する現代社会の危機に対処する人材となるため、実際に海外に赴かなければ得られない現地での体験を通して、異なる文化的・社会的背景を持つ海外での危機管理の概念を理解することによって、国際的視点と危機管理のさらなる知見を獲得することを目的とします。授業形態は事前講義、実習、事後演習といった形式で行われます。年度ごとに、たとえば「戦争と平和」といったテーマを設定し、赴く海外現地の実情や施設等、さらに国際情勢等について事前に調査、研究し、その後実際に現地を訪れ、おおよそ2週間かけて視察し、帰国後報告を行います。 なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード ハワイの歴史、太平洋戦争、自由で開かれたインド太平洋戦略					
授業の趣旨	■副題 肌で感じる国際感覚 ■授業の目的 「日米における危機管理体制の比較」というテーマの下に、日本の危機管理制度と「海外の危機管理制度」を比較学修し、我が国における危機管理への示唆を探るとともに、危機管理を担当する人材に必要とされる国際的知見を獲得することを目的とします。 ■授業のポイント 事前準備 をしっかりとすることにより、より充実した滞在となります。現地では事前に勉強したことを確認するつもりで参加する様にしましょう。					
総合到達目標	一般総合目標【GIO】 現在の国際情勢のもと、日本と米国における危機管理制度について比較学修し、我が国の危機管理全般について考察する。また、危機管理を担当する人材に必要とされる国際的知見を得る。 個別行動目標【SBOs】 1.現在の国際情勢のもと、日本及び米国における出入国手続や関連する法令について基礎的知識を修得し、説明することができる。（第1回～第3回、第14、15回） 2.米国における危機管理制度や機関について実地視察し、現地で得た知見を説明することができる。（第4回～第15回） 3.日米における危機管理制度等について比較し、説明することができる。（第4回～第15回） 4.実地研修において、自身の問について英語を用いてコミュニケーションできる。（第3回～第13回）					
成績評価方法	■授業参加度（60%） 適用ルーブリック A1, A2, F1, F2, J1, J2 ■成果発表1回（20%） 適用ルーブリック F1, K1, K2 ■レポート1回（20%） 適用ルーブリック F1, F2, J1, J2, K1					
履修条件	研修前説明会（2回）と、事前研修、事後研修に出席すること。					
履修上の注意点	特になし。					
授業内容	「日米における危機管理体制の比較」というテーマの下に、日本の危機管理制度と「海外の危機管理制度」を比較学修し、我が国における危機管理への示唆を探るとともに、危機管理を担当する人材に必要とされる国際的知見を獲得する。 <table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ 事前研修1 オリエンテーション（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。（A1, A2, F1, F2, J1, J2） ③予習（120分） シラバスの内容を一読し、インターネットでの検索や図書館等にある現地ガイドブックなどを活用し訪問予定地の概要及び、授業内容の全体像を把握する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、授業の全体像や評価等、自分の学習計画などについて確認する。 </td></tr></table>		回	内容	1	①授業テーマ 事前研修1 オリエンテーション（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。（A1, A2, F1, F2, J1, J2） ③予習（120分） シラバスの内容を一読し、インターネットでの検索や図書館等にある現地ガイドブックなどを活用し訪問予定地の概要及び、授業内容の全体像を把握する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、授業の全体像や評価等、自分の学習計画などについて確認する。
回	内容					
1	①授業テーマ 事前研修1 オリエンテーション（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。（A1, A2, F1, F2, J1, J2） ③予習（120分） シラバスの内容を一読し、インターネットでの検索や図書館等にある現地ガイドブックなどを活用し訪問予定地の概要及び、授業内容の全体像を把握する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、授業の全体像や評価等、自分の学習計画などについて確認する。					

2	①授業テーマ 事前研修2 訪問先の概要 ②授業概要 各訪問先の歴史的背景、施設の概要等について理解する。(A1, A2, F1, F2, J1, J2) ③予習(120分) 訪問箇所を事前に調べ、疑問点などについてグループで議論できるように整理する。 ④復習(120分) 講義ノートおよびポータルサイトの授業資料を確認し、現地訪問時に考察する要点について整理する。
3	①授業テーマ 成田空港・ホノルル国際空港(入国・出国管理等)視察 ②授業概要 日本、米国それぞれの出入国管理の概要について理解するとともに自らが経験する。(A1, A2, K2) ③予習(60分) 出入国の手続き要領について調べておく。 ④復習(60分) 出入国管理について気づいたことを整理しておく。
4	①授業テーマ 太平洋津波警報センター, ビショップミュージアム&サイエンスアドベンチャーセンター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
5	①授業テーマ 太平洋津波警報センター, ビショップミュージアム&サイエンスアドベンチャーセンター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
6	①授業テーマ ヒッカム空軍基地、戦艦ミズーリ記念館、太平洋艦隊潜水艦博物館、パンチボール、日本文化センター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
7	①授業テーマ ヒッカム空軍基地、戦艦ミズーリ記念館、太平洋艦隊潜水艦博物館、パンチボール、日本文化センター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
8	①授業テーマ ホノルル警察博物館、日本総領事館、ハワイ大学イーストウエストセンター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点に

	について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
9	①授業テーマ ホノルル警察博物館、日本総領事館、ハワイ大学イーストウエストセンター視察 ②授業概要 各訪問先での説明受け及び見学により、施設等の概要を理解するとともに、疑問点について積極的に質問する。(A1, A2, F1, F2, K2) ③予習(45分) 各訪問先の概要について調べておく。 ④復習(45分) 各訪問先で得たことについて整理しておく。
10	①授業テーマ 個人又はグループによる研究テーマに基づく実地研修 ②授業概要 事前研修やグループ・個人にて計画したテーマに基づく考察対象について実地視察を行い、論拠の収集と分析を行う。(A1, A2, K2, F1, J1) ③予習(45分) テーマを設定し、視察先について事前調査を行う。調査先への訪問予約、アクセス方法を確認する。 ④復習(45分) 視察先で得た情報や資料を整理する。資料・情報をグループで共有する。
11	①授業テーマ 個人又はグループによる研究テーマに基づく実地研修 ②授業概要 事前研修やグループ・個人にて計画したテーマに基づく考察対象について実地視察を行い、論拠の収集と分析を行う。(A1, A2, K2, F1, J1) ③予習(45分) テーマを設定し、視察先について事前調査を行う。調査先への訪問予約、アクセス方法を確認する。 ④復習(45分) 視察先で得た情報や資料を整理する。資料・情報をグループで共有する。
12	①授業テーマ 個人又はグループによる研究テーマに基づく実地研修 ②授業概要 事前研修やグループ・個人にて計画したテーマに基づく考察対象について実地視察を行い、論拠の収集と分析を行う。(K2, F1, J1, A2) ③予習(45分) テーマを設定し、視察先について事前調査を行う。調査先への訪問予約、アクセス方法を確認する。 ④復習(45分) 視察先で得た情報や資料を整理する。資料・情報をグループで共有する。
13	①授業テーマ 個人又はグループによる研究テーマに基づく実地研修 ②授業概要 事前研修やグループ・個人にて計画したテーマに基づく考察対象について実地視察を行い、論拠の収集と分析を行う。(K2, F1, J1, A2) ③予習(45分) テーマを設定し、視察先について事前調査を行う。調査先への訪問予約、アクセス方法を確認する。 ④復習(45分) 視察先で得た情報や資料を整理する。資料・情報をグループで共有する。
14	①授業テーマ 事後研修1 訪問地の危機管理体制について ②授業概要 現地での実地研修を終え、個人またはグループで視察した各機関、施設について学修した内容を整理し、課題や特徴などを日本国内の事情と比較しながら他者に発表できる資料としてまとめることができる。(F1, F2, J1, J2, K1, K2) ③予習(120分) 現地で学習したことについて議論できるように整理する。

	④復習（120分） 研修時の課題、学習ノート、配布された授業資料や現地で入手した資料等を確認し、要点や疑問点について整理する。
	①授業テーマ 事後研修2 訪問地の危機管理体制について ②授業概要 現地での実地研修を終え、個人またはグループで視察した各機関、施設について学修した内容を整理し、課題や特徴などを日本国内の事情と比較しながら他者に発表できる資料としてまとめることができる。（F1, F2, J1, J2, K1, K2） ③予習（120分） 現地で学習したことについて議論できるように整理する。 ④復習（120分） 研修時の課題、学習ノート、配布された授業資料や現地で入手した資料等を確認し、要点や疑問点について整理する。
関連科目	専門英語コミュニケーション1（RMGT3341S）
教科書	関連資料は都度指示します。
参考書・参考URL	参考になる資料及びURLは都度指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント（10%）、パブリックセキュリティ（30%）、グローバルセキュリティ（50%）、情報セキュリティ（10%） ■危機管理と法学とのバランス 危機管理（80%）、法学（20%）

